

【表紙】

【提出書類】 内部統制報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の4第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2026年6月25日

【会社名】 旭ダイヤモンド工業株式会社

【英訳名】 Asahi Diamond Industrial Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 片岡和喜

【最高財務責任者の役職氏名】 執行役員管理本部長 日下部均

【本店の所在の場所】 東京都千代田区麹町二丁目4番地1  
(2026年5月5日から本店所在地 東京都千代田区紀尾井町4番1号  
が上記のように移転しております。)

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

旭ダイヤモンド工業株式会社 大阪支店  
(大阪府大阪市淀川区宮原三丁目4番30号)

旭ダイヤモンド工業株式会社 名古屋支店  
(愛知県名古屋市東区葵一丁目16番34号)

旭ダイヤモンド工業株式会社 北関東支店  
(埼玉県北本市東間一丁目20番1号)

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長片岡和喜及び執行役員管理本部長日下部均は、当社並びに連結子会社及び持分法適用関連会社（以下、「当社グループ」という）の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価については、当連結会計年度の末日である2026年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠いたしました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社並びに連結子会社及び持分法適用関連会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性については、金額的及び質的重要性並びにその発生可能性を考慮して決定しており、当社、連結子会社15社及び持分法適用会社2社を対象として行った全社的な内部統制の評価を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を決定いたしました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、当社グループは、ダイヤモンド工具の製造販売を主要な事業としていることから、事業拠点の重要性を判断する指標としては売上高が適切であると判断し、各事業拠点の「売上高（連結会社間取引消去後）」の金額が高い拠点から合算していき、連結売上高の概ね2/3に達している当社、台湾鑽石工業股份有限公司の2社を「重要な事業拠点」としました。さらに、製造拠点として重要性の高い山梨旭ダイヤモンド工業株式会社1社を「重要な事業拠点」に加えました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金および棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象にしました。また、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスや、リスクが大きい取引を行っている事業または業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しています。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当連結会計年度末日時点において、当社並びに連結子会社及び持分法適用関連会社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

## 4 【付記事項】

該当事項はありません。

## 5 【特記事項】

該当事項はありません。